

特集「自治体におけるカリキュラム開発」

大桃敏行

東京大学大学院教育学研究科では、小玉重夫教授を研究代表者とする共同研究「社会に生きる学力形成をめざしたカリキュラム・イノベーションの理論的・実践的研究」（科学研究費補助金基盤研究(A)、平成 23～25 年度）を実施してきました。本共同研究の研究課題の一つに「カリキュラム・イノベーションに向けた行政の役割」があり、私たちの研究室のメンバーの押田貴久（現在の所属：宮崎大学）、仲田康一（同：浜松大学）、武井哲郎（同：びわこ成蹊スポーツ大学）、村上純一、梅澤希恵、木場裕紀、讃井康智、町支大祐と大桃敏行で取り組んできました。まず対象と方法について検討し、地方段階でのカリキュラム開発、特に教育課程特例校制度を用いたカリキュラム開発に焦点を当てることとし、訪問調査と郵送による質問紙調査を中心に研究を進めてきました。これまで訪問した自治体は青森県三戸町、東京都世田谷区、神奈川県南足柄市、長野県諏訪市、富山県高岡市、石川県金沢市、熊本県産山村、同宇土市です。質問紙調査は 2012 年 1～2 月に行いました。

本研究グループでは、これまでに次の学会発表を行いました。

- (1) 押田貴久・仲田康一・大桃敏行「自治体独自のカリキュラム開発—教育課程特例校に焦点を当てて—」日本教育政策学会第 19 回大会（東京学芸大学）2012 年 7 月 7 日
- (2) 村上純一・梅澤希恵・武井哲郎・町支大祐「地域文化を活かした自治体独自のカリキュラム開発—宇土市と諏訪市を事例として—」日本教育政策学会第 19 回大会（東京学芸大学）2012 年 7 月 7 日
- (3) 梅澤希恵・木場裕紀・讃井康智・町支大祐・仲田康一・押田貴久・武井哲郎・村上純一・大桃敏行「自治体独自カリキュラムの実施に対する校長・教員の認識—教育課程特例校への質問紙調査から—」日本教育学会第 71 回大会（名古屋大学）2012 年 8 月 26 日
- (4) 讃井康智・押田貴久「自治体独自カリキュラムの実施における教育委員会の役割と課題—教育課程特例校に関する質問紙調査から—」日本教育制度学会第 20 回大会（岡山大学）2012 年 11 月 17 日
- (5) 武井哲郎・梅澤希恵・町支大祐「自治体独自カリキュラムが教員の実践と子どもの学びに及ぼす影響—教育課程特例校制度に焦点を当てて—」日本教育制度学会第 20 回大会（岡山大学）2012 年 11 月 17 日
- (6) 梅澤希恵・村上純一・武井哲郎・押田貴久「先進自治体における外国語カリキュラムの開発と教員の受容—石川県金沢市を事例に—」日本教育政策学会第 20 回大会（桜花学園

大学・名古屋短期大学) 2013年7月20日

また、昨秋の東京大学大学院教育学研究科附属学校教育高度化センター主催シンポジウム「社会に生きる学力形成をめざしたカリキュラム・イノベーション—具体的な実践の提案—」(東京大学、2012年9月29日)では、大桃敏行と村上純一で「地方発のカリキュラム開発—教育課程特例校を事例に—」の発表を行いました。

本特集はこの共同研究の成果の一部を示したものです。ご意見等いただければ幸いです。また、上記(1)の発表にもとづく拙論を東京大学大学院教育学研究科附属学校教育高度化センター『年報(2012年度)』(2013年3月)に掲載しましたので、あわせてご高覧いただければ幸いです。